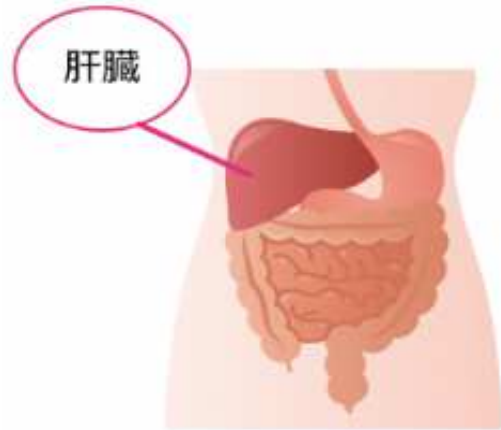


肝臓の値で異常と言われたら

AST (GOT)・ALT (GPT)・ γ -GTP 数値は大丈夫ですか？

肝臓は、お腹の右上部分にある、
およそ 1 kg～1.5 kg もの重量の
ある臓器です。



■ 肝臓の主な役割

肝臓は人間の生命の維持に必要不可欠であり、主に次の3つの働きをしています。

代謝	3大栄養素である炭水化物（糖質）・脂肪（脂質）・たんぱく質の代謝・貯蔵
解毒・排泄	アルコール、薬の成分、有害物質、体内の老廃物などの分解・排泄
胆汁の分泌	脂肪の消化に必要な胆汁の生成・分泌

■ AST (GOT)・ALT(GPT)

AST と ALT は肝臓の機能を調べるための代表的な検査項目です。肝臓に何らかのダメージが加わって細胞が破壊されると、血液中にこの AST と ALT が大量に放出されるため、血中濃度が上昇します。このことから、AST と ALT の数値が高い場合、肝臓が破壊されていることがわかります。

ただし、肝硬変など肝臓の状態が悪いと壊れる細胞が残されていないために肝臓が悪くても上昇しない場合もあります。AST は肝臓以外に筋肉や赤血球中にも残存するため、ALT が正常で AST のみが増している場合は肝臓以外が原因の可能性があります。

■ γ -GTP

γ -GTP は肝臓の解毒作用に関係する酵素で、肝臓疾患のほか、胆道や膵臓の疾患でも上昇することがあります。また、 γ -GTP はお酒の飲みすぎや最近増えている非アルコール性脂肪性肝疾患や肝炎によっても上昇する性質があるため、肝障害を発見するきっかけにもなります。

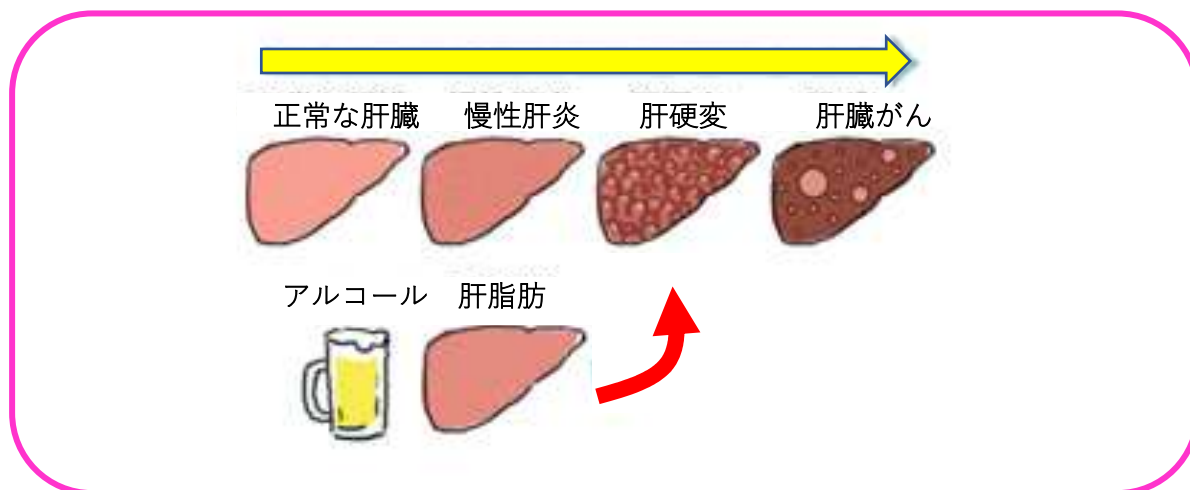
基準範囲と、基準範囲外（異常値の場合に疑われる病気）

項目	基準範囲	要注意	異常	疑われる病気
AST(GOT)	30 U/L以下	31~50 U/L	51 U/L以上	高値：急性肝炎、劇症肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝炎、脂肪肝、肝硬変、肝臓がんなど
ALT(GPT)	30 U/L以下	31~50 U/L	51 U/L以上	
γ -GTP	50 U/L以下	51~100 U/L	101 U/L以上	高値：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓がん、アルコール性肝障害、非アルコール性脂肪性肝炎、薬剤性肝障害、胆道系疾患など

数値資料：公益社団法人 日本人間ドック学会

■ 肝機能障害（肝機能異常）の原因

肝機能障害は、急性ウイルス性肝炎や薬剤性肝炎の急性肝機能障害と、その他の慢性肝機能障害に分けられます。慢性肝機能障害は、B型・C型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、アルコール性肝炎、脂肪性肝炎、自己免疫性肝炎があります。この中で特に、近年の飽食や運動不足の影響から、非飲酒者の脂肪肝（非アルコール性脂肪性肝疾患）が増えており、代表的な肝機能障害のひとつとなっています。慢性化すると、肝硬変から肝臓がんの発症となるものもあります。



健康診断で受診が必要と言われたら…

主治医、または医療機関へ相談しましょう。

医療法人 仁和会 竜王リハビリテーション病院

〒400-0114 甲斐市万才 287 TEL 055-276-1155

URL <http://www.ryuo-rhp.or.jp/>

E-Mail ryuo-rhp@tg7.so-net.ne.jp